

People

ピープル

大学生

田辺貴久



大学では毎日のように、ゲイ友とお茶した
り、ご飯食べたりしています。周囲をオ
ネエで威嚇するキツイ集団ってわけじゃなくて、
どこにでもいそうな仲良しグループって感じで、
カフェテリアやベンチで丸くなって、恋の話や、
最近あった面白い話や、そんな他愛のない会話
で盛り上がっています。クラスでも結構カムア
ウトしてあるんで、やってることは変わらないん
ですけど(笑)。いつでも素の自分でいられるよ
うな人間関係の中で、キャンパスゲイライフは
100点満点ですよ。

たなべ・たかひさ●1982年1月19日生まれ
(21歳)。早稲田大学第一文学部4年。早稲
田ゲイサークル「GLOW」代表(インカレ
だから誰でもウェルカム!)。ホームページ
(OPENGATE…[http:// www006.upp.sonet.ne.jp/opengate/](http://www006.upp.sonet.ne.jp/opengate/))をややつつ、適度に
大学に通う、平々凡々な大学生です。



医師 佐藤未光

医者になったときに自分の職能をゲイであることに活かしたいとは思っていたんです。でも、実際に、HIVの啓発活動などに関するようになったのは、アクティヴィストでありアーティストでもあるハスラー・アキラ氏と出会ってからです。それ以前にも付き合っていた恋人が感染したりした経験があったので、エイズの問題は身近には感じていたんですが、その出会いを契機に、脳神経外科の仕事よりも、HIVの予防の活動を中心にするようになりました。

この活動を通してたくさんのお大切な人たちと



写真／佐藤智砂

出会いました。その多くの人が「ゲイであること」を「をエンジョイしていて、日常生活の中に自然に浸透させていることに大いに刺激されました。まだまだ「ゲイライフ」と「社会生活」を分断している人たくさんいるでしょ。自分も以前はそうでした。でも今は比較的オープンにしているラクだし楽しいし、そうできる環境に感謝すると同時に、早く世の中がそうなればいいなと思うんです。

実はゲイの医者って案外たくさんいるんです。自分の場合は医師としての王道からは大きくはずれてきましたが、今しかできないことを自分で納得しながらやっていきたいと思っています。

HIVの問題は一時期ほど騒がれなくなっていますが、確実に感染は広がっています。ですから、若い世代の方にも、ぜひ、他人事と思わずに、自分の身近な問題として考えてほしいと思います。



さとう・みとお ●本名。1968年5月9日生まれ。東京出身だが信州で学生時代を過ごし、ぼーっとした性格になる。現在彼氏と二人暮らし。お互いの家族にはカミングアウト済みで、よく行き来をしています。ボランティアに身を投じるようになってから定収入がないことが悩みの種。最近老人医療・福祉に興味があり、ゲイの老後や家族のあり方にも関心があります。でも「ゲイだけで凝り固まるのもどうよ」って感じかな。



僕の場合はカミングアウトなんかしなくとも、すぐバレちゃうんですよ。カッコイイ男の子が話しかけてきたりすると、本気でテして舞い上がってしまうので、女性社員とかに見破られちゃうんです。「ウタさんて、男が好きでしょ?」って。だから、隠さないことに決めただんです。ウソがヘタなので。

職場の人々から差別やいやがらせを受けたことは、一度もありません。自分が東京レスビア

サラリーマン 歌川泰司

うたがわ・たいじ●1966年3月22日生まれ。16歳で新宿2丁目にデビュー。22歳で就職。以来、職場では常にカミングアウト。2000年に現在の会社（銀座から夕留に本社を移転した大手化粧品会社）に再就職。2000年2月より、ポータルサイト「リクルート・オールアバウト・ジャパン」の同性愛カテゴリー担当ガイドとして、執筆活動。

<http://allabout.co.jp/relationship/homosexual/>

ン&グレイパレード2002の実行委員をしてい
たときも積極的に応援してくれました。本当に
素晴らしい人たちです。感謝しています。
ただ、自分にとっても周りにとってもデリケー

トな部分を常に世間にさらしているのだという
緊張感は、忘れないようにしています。「みんな
と違う」ということと「みんなと同じ」というこ
とのバランスをとる上で、大事なことです。

人事異動の季節は、新しく異動してきた人た
ちへのカミングアウトの季節でもあります。職
場でのカミングアウトは、1回じゃ終わらない
んですよ。





らく●1965年10月13日生まれ。23歳で就職&新宿2丁目にデビュー。営業職ひとすじ。会社ではひたすらノンケを演じる。が、夜はひたすらゲイバー通い。26歳で現在のパートナーと出逢う。29歳で退職。そして2丁目でゲイバー「ISLANDS」をはじめ（店は昨年移転し、現在は3丁目で営業中）。現在37歳。ゲイバーを始めて8年目。「ISLANDS」TEL 03-3359-0540
<http://www3.alpha-net.ne.jp/users/islands/>

らくらバー経営

う ちの場合、初心者の方が来店されるときには、まずは一人で来られることをお勧めします。個人的なバックグラウンドとか悩みとかは、その方がゆつくりと話すことができまし、こちらも顔も覚えることができる。それに、誰かといっしょにいるよりは、他のお客さんたちにチャホヤされるかもしれない(笑)。

僕は営業マンからゲイバーのマスターになったんですが、よかった点は、嘘をつかずにいられるという解放感を得られたことですね。あと、この商売の楽しいことは、ゲイという共通項だ

けて年代も職業も異なる人たちから、さまざまなお話を聞けることもありません。会社員だった頃は、その業界の情報にしか接する機会が少なかったし、付き合いも似たような人たちとの狭い範囲に限られていたのですが、こういう店だと、サラリーマンも、フリーターも、お医者さんも、芸能人も…さまざま集まってきますから。一発当てようとか儲けようとかいう人にはお勧めできない商売ですが(笑)、いっしょけんめいやれば食べていくことくらいはできると思いますよ。



写真/田辺貴久



ゆう●1975年生まれ。大学卒業後、東京で会社員を経て、クラブ・マネージャーに。25歳のときに実家に戻り、農業を継ぐ。ブロッコリー、カリフラワー、タバコ、里芋、米などを生産。普通体型からガチムチ、23歳から40代前半の男性がタイプ。



農業 雄

僕は大学卒業後、関東で働いていたんですが、その仕事を続けるかどうか迷っているときに、父親が体調を崩したこともあって、実家に戻って稼業の農業を継ぐことにしたんで



す。でも、そのときにカミングアウトをして、結婚しないこともちゃんと理解してもらいました。25歳のときのことです。

ゲイとして田舎で暮らしているかどうかが最初は迷ったところもあったのですが、少ないながらもゲイバーもあるし、バレーボールチームもある。面白い友人たちとも知り合えた。それにインターネットや携帯があるから、他のゲイと知り合うことや連絡を取り合うことも容易なんです。東京などへも飛行機ですぐですし。

仕事の上では、最初は体がきつかったです、作業に必要な筋肉がついてくると慣れてくるものなんです。下半身が強化されてナチュラな筋肉が形成される。だからゲイの人たちも、ジムに金を払うのならば、農業をやれ、と(笑)。

基本的には8時間労働で、朝9時から夜7時くらいまでです。けっこう休憩がありますから、そんなにつらくはありません。でも、日差しが強い中で仕事するので、5月くらいから日焼けの下地を作るように心掛けていますし、UVケアはかせません(笑)。でもそれさえ気を遣っておけば肌荒れもしないし、また、体が汚くなるような農業では駄目なんだというのが持論です。

トレーター

KeiCHANG



けいちゃん●1972年、東京生まれ。青山学院大学文学部卒業。セツ・モードセミナー修了。グラフィック・デザイナーとして、(株)フラミンゴスタジオ他数社経験。2001年よりイラストレーターとして活動を始める。2002年3月よりフリーとなり、媒体を選ばず活動中。個展2回、グループ展4回参加。
<http://www.keichang.com/>

僕

がゲイだと自覚したのは思春期の頃で、かなり悩みましたね。中学生くらいになると、友達との会話も異性の話題が多くなるわけですが、自分はそのに加われないし、誰かに相談することもできない。ノンケ（異性愛者）を好きになって、つらい思いをしたこともありました。当時はインターネットなどがなかったから、まず情報がなかった。

でも、今はネットにアクセスすれば同じゲイの人が他にもいるってこともわかるし、知り合うこともできる。少しずつゲイにとって住み良い世の中になって来ていると思います。この流れをもっと進めて、次に出てくるもつと若い世代が悩んだり苦しんだりしないような世界にしていければいいですね。

現在はフリーの仕事なので、ゲイであることを隠す必要もないし、同居の母にもカミングアウトして、恋人も紹介しています。日常生活をしている中で、自分がマイノリティだと意識することもなくなってきた感じですよ。

イラスト





映画監督 大木裕之



おおき・ひろゆき ●東大工学部建築学科卒業後、イメージフォーラムで映画を学ぶ。1990年『遊泳禁止』を皮切りに、1991年には山形国際ドキュメンタリー映画祭で6作品が上映、1995年には『Heaven-6-Box』でベルリン映画祭ネットバック賞を受賞、1995年『優勝—RENAISSANCE—』がサンダンス映画祭招待上映、1997年『心の中』がバンクーバー国際映画祭招待上映など、国際的に評価の高い映像作家。



映画「G8」 写真／怡土鉄夫

映

画を撮り始めた頃はまた、自分の中でもセクシュアリティというのは微妙で、ただ好きな被写体を好きなように映していたんで、それを観たゲイの人が「自分と同じ視線で男の子を見ていると思った」と言ってくれたことがありました。僕自身はそんなにゲイ映画だと意識して作っているわけではないんです。それは今でもそうで、ゲイというアイデンティティを強く持っているというよりは、映画というフィクションと現実の区別のつかないようなところで生きている（笑）。

僕は映画を制作する現場自体が好きで、どんないろんな人が集まってきて、そこで恋愛があったり、ファミリーみたいなのができていたりという流れが楽しいんです。僕の作品というのはテーマとしてゲイがあるわけではないんだけど、そこでのアクションを撮っていくから、結果として、自分の欲望が反映されるんですね。だから、映画というセクシュアリティの中に生きているとも言えるかもしれない。



「既婚でバイ」
『バディ』4月号(テラ出版)収録



漫画家 里見満

私 は本宮ひろ志先生のもとでアシスタントをしていたのですが、第一作を発表するにあたっていくつか原案を先生に見てもらって、その中で、ゲイをテーマにしたものがいいというご意見をもらったんです。でも、編集サイドの反応はかんばしくなくて、それで本宮先生のプロデュースという形で、「オールマン」(集英社)というメジャー誌に掲載できるよつにしていたことができました。

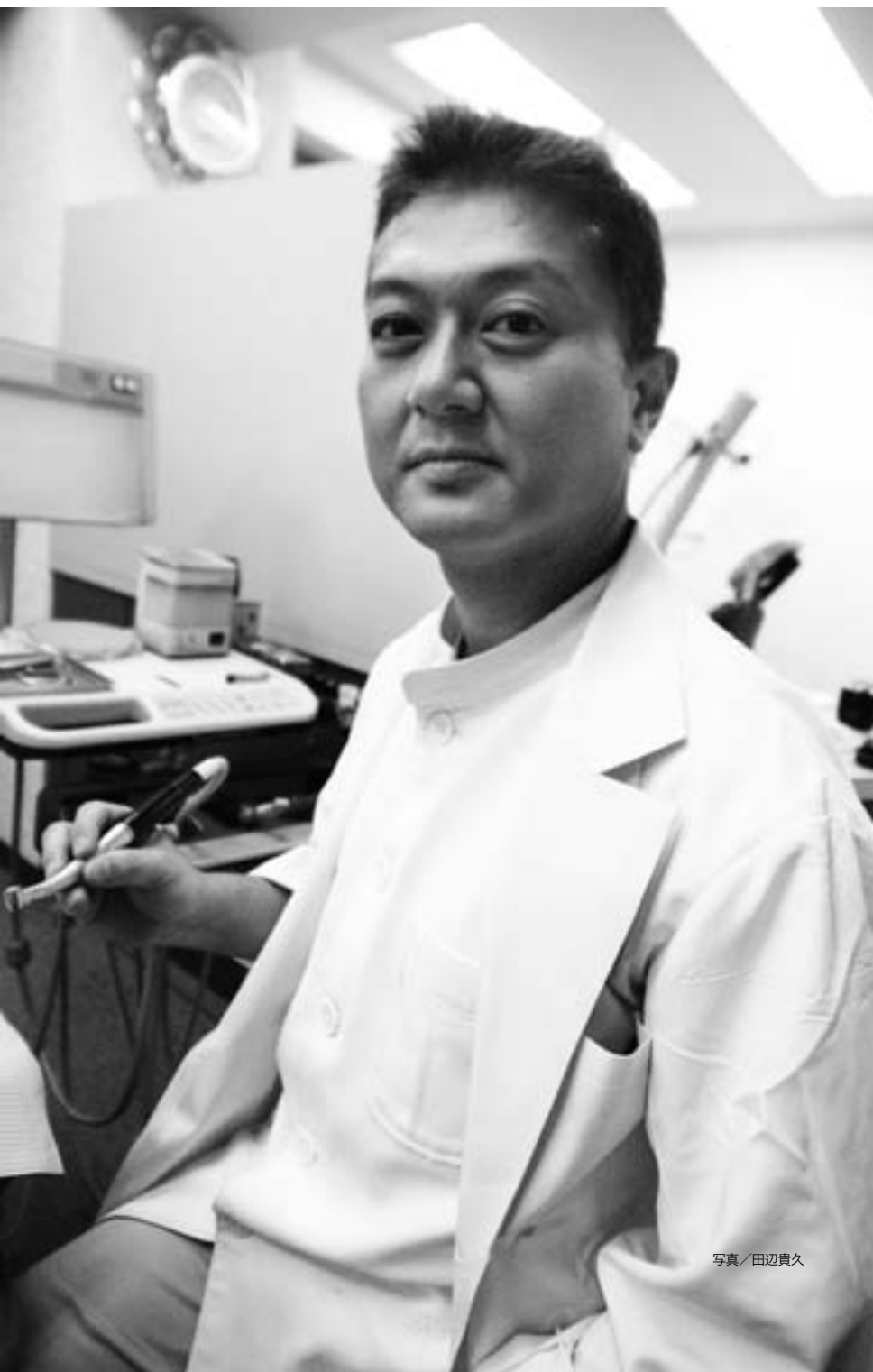
私が「レインボウライフ」を通じて描きたかったのは、同性愛者がそこかしこに存在していて、案外ごきげんにやっている(笑)ということなんです。

たしかに取り巻く壁はあるけれど、それは人間誰しも生きていく上で抱えているもので、同性愛というのもその一つの障害にすぎない、ということ。私の仕事によって、まだゲイであることを受け入れてない若い子が、たまたまコンビニで手に取った漫画誌にゲイのことが載っていた、という状況があったらいいなあ、と思いました。

若い世代にメッセージしたいことは、手前のところでゲイを悩んでいる暇があったら、ゲイになって悩め! ということです。恋をたくさんしてほしいです。

さとみ・みつる ●1969年12月9日生まれ。学生時代は「おかま」だったが、短大の女装コンテスト優勝をきっかけに「ホモ」に転向。その後、同窓生だった妻との結婚をきっかけに「バイ」を自認する。1998年、『吉祥寺探偵屋女組』(集英社「別冊ヤングジャンプ」)で漫画家デビュー。2001年、ゲイコミック『Rainbow Life』(集英社「オールマン」)を連載。現在、『既婚でバイ』(テラ出版「パディ」)を連載中。





歯科医師 中田たか志

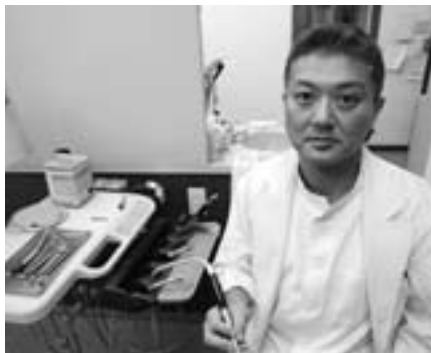
歯科医師として、患者の苦痛というものが、他人にはわかりづらいものだと思えることは大切です。そういう点において、私がゲイであることの経験が活かされていると思います。マイノリティのマジョリティに対する位置関係と、患者と医師という関わりは、その力学において近いものがありますから。私自身、弱い立場の患者の訴えに繊細に耳を傾けることを心掛けています。

これから歯科医師になろうとしているゲイの方たちにアドバイスするのならば、「先生」と呼

ばれるポジションに自分を置くことで、自身のマイノリティであることのコンプレックスを埋めようとするのではなく、その社会的立場を、ゲイというマイノリティの状況を社会に訴えるのに役立ててほしいと思います。

私は東京都健康局の「エイズ診療協力歯科診療所」に登録しているのですが、そういう事業に参加する歯科医院自体少ないですし、それをインターネットなどで積極的に公表しているのは、うち以外にはほとんどないのが現状なんです。

なかた・たかし ●1960年8月1日生まれ。16歳で二丁目デビュー。高校卒業後、女装バー、観光バーで働く。20歳で歯科大学入学。水商売でバイトしながら大学卒業。歯科医師免許取得。1996年5月「中田歯科クリニック」開業。日本舞踊春謡流名取師範、女方芸では定評がある。日本スノーボード協会公認インストラクター、ゲイのスノーボードサークル「Shifty Air Snowboard Team」主宰。東京レスビアン&ゲイパレード2002実行委員会サポーター。



フォーマー G.O.Revolution

化粧してツラかぶって、いろんな所で「オカマばんざい！」とか「チンコ大好き！」などと叫んでいると、「何でそんなことやってるんですか?」と聞かれることがたまにあります。何ででしょう?

僕がもし、ゲイに生まれたことを何の苦勞もなく受け容れていたら、わざわざパフォーマーなんてやっていません。田舎で過ごした中学・高校時代、ずいぶん悩みました。でもドラッグクイーンというものを知って、何かがはじめて、気づくとステージに上がって喝采を浴びて…その楽しさの中で、僕は初めて、ゲイに生まれてよかった!と実感できたんです。G.O.Revolutionとはパレードと同じように、僕なりのゲイプライドの表現なのです。たとえどんなに見苦しくても…(苦笑)。

TVに出てるドラッグクイーンも、クラブで踊ってるゴーボーイも、二丁目で歌ってるインディーズ・ミュージシャンも、きっと、みんなそうやって、自分なりの「ハッピーのカタチ」を見せているのです。

ゲイシーンって、本当に、驚くほどたくさん、スポットライトが用意されてるんですよ。アナ

タがスターになることだって、夢じゃないんです。なんてシアワセなんでしょう!



パ

【写真右】第1回東京レインボー祭り（2000年）にて、「オカマばんざーい!」とラップしています

【写真中】親友のメロウディアス（DRAG QUEEN）との共演で、相手の男役をやりました。男…?（笑）

【写真左】AIDSで亡くなったフレディ・マーキュリーへのオマージュ。天国で笑ってくれているはず



ジーオーレポリューション ●1969年5月26日生まれ。
20歳…ゲイバーデビュー。23歳…京都大学文学部卒業、金融系の会社に就職。26歳…ドラッグクイーン、ジュヌヴィエーヴの誕生。27歳…会社を退職。『パティ』編集部で働き始める。30歳…ドラッグクイーンを引退。3カ月後、女装にこだわらないパフォーマー、G.O.Revolutionとして再デビューし、現在に至る。32歳…東京レズビアン&ゲイパレード2001実行委員を務める。前日祭として野外イベント「GLORY」を立案。
<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Himawari/3346/>

